

り、靖国神社に合祀されている。このことを知って、自分は左翼から保守派へ転向した。自分にとって、靖国神社と英霊の存在は決定的であり、その尊厳を汚す行為は絶対に容認出来ない。

さて、才女で知られる作家・有吉佐和子の著書として有名なのが 1975 年に出版された「複合汚染」である。複合汚染とは「複数の汚染物質が混合すること

で、個々の汚染物質が単独の場合に与える被害の質、量の総和を超える相乗的な汚染結果があらわれること」とされる。今あらためて靖国神社を巡る諸問題を考えてみると、この問題が極めて複雑怪奇であることに思い至る。まさに、政治的、宗教的な「複合汚染」と云った観が有る。

靖国神社を巡る諸問題は、信仰の問題だけでなく、文化の問題でもない。政治や国防、イデオロギーといった様々な要素が複合的に組み合わさった鶴のような怪物である。だから、政治という面のみで取り組むとどうしても手が余るところが出てくる。かくなる上は、靖国神社という軸を中心に据えて、あらゆる分野に視野を広げて考察を進めていかないと出来ないだろう。

浅学菲才な自分には荷が重過ぎるが、以下挑戦してみたい。靖国神社を巡る諸問題は、何も靖国神社が創立した当初から存在した訳ではない。更に、大東亜戦争敗戦後、GHQによって、いわゆる「神道指令」が出されたが、それは、靖国神社を巡る諸問題の萌芽に過ぎない。この問題が本格的に立ち上がったきたのは、いわゆる「政教分離」「信教の自由に関する違憲問題」が提起された 1965 年の津市体育会地鎮祭訴訟からである。こ

こから、神社神道と公共団体との関わり合いを狙い撃ちとした訴訟攻撃が始まる。この 1965 年あたりの時代背景を

考えてみたい。時の政権は佐藤栄作総理であり、1955 年の自民党結党から 1960 年、日米安保条約改定の 1960 年から 5 年、前年の 1964 年までは「所得

倍増」の池田勇人内閣だった。まだまだ、左翼勢力の勢いは盛んであったが、自民党政権に安定感が出て来た頃である。日本社会党の議席数は伸び悩み、非自民党の投票は、民社党、公明党、共産党に分

散し、選挙による革新勢力の政権奪取が遠のいた。一方で、国政での政権交代が困難になる代わりに、都道府県や区市町村の首長に革新勢力の候補者が次々に当選するようになった。日本共産党は宮本

顕治によって、事実上、武力革命路線を取りやめ、武力闘争は新左翼の党派が担うことになった。つまり、左翼勢力は、武力であれ選挙であれ、政権奪取から遠のき革命の成就が見込めなくなってきたのである。そこで、左翼勢力は、新たな問題争点の創出によって隘路から活路を見出す手に出た。それは「反日」である。日本は大東亜戦争で敗北したが、天皇陛下と皇室の存在は「象徴」というかたちで維持された。いわゆる「天皇制」の日本を徹底的に否定し、攻撃することによって、戦うべき敵を明確化し、革命活動の求心力を保持しようとしたのである。天皇陛下は「祭祀王」であり、神社神道の頂点に位置する。いわゆる「天皇制」を打倒するには、天皇陛下と全国の各地域の国民を「なかとりもち」する神社神道を打倒すべきである。ここから、神社神道への政治闘争、裁判闘争が始まる訳である。時代は下り、1968 年を一

の頂点としながらも、左翼学生運動が日本社会を席巻する。しかしながら、国政選挙に於いて自民党が下野することも無く、日本の保守勢力は奇妙な安定感を持つようになる。

左翼学生運動は、年々過激化していきとどまることを知らない勢いを示すが、焦燥感からいられたのはむしろ左翼勢力の方だった。そして、いわゆる武力革命闘争も警察によって完全に鎮圧、制御されるのが明確になってくると、単なるテロリズムに墮してしまふ。最終的に

左翼運動の勢いにとどめを刺したのは、1972 年の連合赤軍事件である。この無残な事件に日本国民は戦慄し、左翼運動へのシンパシーを失っていった。ここから、左翼勢力は、社会革命への運動路線から、個別の問題に特化していき活路を見出していく。それは、福祉、人権、

平和、反核反原発、環境、食品の安全、フェミニズム、少数民族、消費者、貧困といった各種の問題である。自民党保守政権が取りこぼしていた、これらの問題に特化し、焦点を絞って切り込んでいくことによって左翼勢力は命脈を保つことに成功する。その中に、歴史認識を問うことによる「反日」がさらなる政治目標となつて浮かび上がってきたのである。

平和を希求するがゆえに、過去の戦争行為を深く反省し、謝罪する。この行為は、極めて良心的かつ倫理的であるというイメージを日本国民に植え付けていった。そして、単なる反省と謝罪ではなく、「戦前」的なるものを激しく断罪することによって自分達の正義と正当性を担保するようになっていく。日本人でありながら、自分達の父祖を断罪するという行為は、すべれて左翼の「自己批判」と通

じる。「自己批判」とは何かと云つと、「自発的に自分の誤りを認めて、公開の場で自分自身を批判すること」。これは、実はキリスト教の懺悔・告解の流れを汲んでいる。つまり、絶対的な上位にある存在、「神」や「党」「大衆」に対して悔い改め、過去の誤った自分自身を否定し、正しくなった新しい自分に生まれ変わることを意味する。ここで、過去と現在を断絶する。汚れた過去と切り離されることにより、新しい自分は無垢となる。だが、その代り、新しい自分は今までの経歴や歴史や伝統から分離される。新しい自分を担保するものは、生まれ変わりを認めた「神」であり、「党」であり、「大衆」である。新しい自分は「神」や「党」や「大衆」に全面的に依存せざるを得なくなる。だから、自己批判をした者は、それ

以後、自己批判しなかつた者以上に、先鋭的な言動を取らざるを得なくなる。それは、過激であり歯止めが利かない。日本における翼勢力の「反日」が醜悪極まりないのは、歴史的認識を「自己

安倍首相靖国神社参拝訴訟進捗状況

【東京】●第 12 回口頭弁論 (判決) 東京地裁
H29-4-28 完全勝訴
現在控訴審期日待ち

【大阪】●第 3 回口頭弁論 (判決) 大阪高裁
H29-2-28 完全勝訴
現在原告上告中、最高裁判断待ち

批判」から出発させているからである。また、朝日新聞や浄土真宗などの日本仏教界が「戦前」的なるものに過剰に批判的なのは、ひとえに「自己批判」を行ったからである。

「自己批判」は、実は、自分自身を否定してはいない。自分に関わる過去を切り離し、宗旨替えを行って、新生したことに、自分自身は肯定される。つまり、朝日新聞や浄土真宗などは、自らを肯定するために、執拗に他罰的になっていく。

「戦前」的存在、それは靖国神社であり、軍隊であり、神社神道であり、皇室や天皇陛下がその標的と見なされるのである。左翼思想とは、インターナショナルイズムであり、グローバリズムであるが、その活動の基盤となっているのは、ナショナルイズムでありパトリオティズムである。スターリンはロシアに依拠した一国社会主義を選択し、毛沢東もホー・チミンもボル・ポトモカストロもチトーも全員、ナショナルイズムに依拠して政権を獲得した。(現在、日共がT P P反対なのは自然なのである。)にもかかわらず、日本の左翼が、何故、「反日」なのか。これは、ナショナルイズムの裏返しなのである。戦後直後から現在まで、左翼が一貫して主張していることは、「アメリカ帝国主義反対」である。つまり、反米である。戦後左翼の出発点は「反米愛国」だったのである。神風特攻までし、更に、全国の街という街を空襲と艦砲射撃で無差別に破壊され、そして原爆を2発も落とされたのである。日本国民は、米国に対しては「恨み骨髄」である筈なのだ。だから、いくら天皇陛下が恭順を示されても、日本国民の深層心理の奥深くには「反米」が残存しており、そこを

ソ連や中共がつけこんで焚き付ける訳である。

一方、GHQは、日本国民の「反米」意識の矛先をかわすために、日本の「軍部」やその協力者を実際以上に悪辣な存在として日本国民に刷り込んだのである。そして、日本国民全員に「自己批判」をうながし、アメリカなどの第二次大戦後の新秩序へ恭順を示すように仕向けたのである。戦後の日本に於いて、「反日」的なる土壌が植え付けられたのである。そして、三十数年後に、左翼勢力は、そのGHQの遺産を自分達の生き残りのために最大限に活用するのである。君が

代・日の丸の国歌・国旗の毀損運動などがどんどん過熱していくのはこの頃である。左翼は、党派の足元をナショナルイズムによって補強しているのであるが、自分たちが自国に於いて少数派に成り、劣勢に立たされたと見るや、インターナショナルイズムのカードを切ってくる。1936年7月から1939年3月まで続いたスペイン内戦に於いて、劣勢に追い込まれた左派の人民戦線政府はソ連やメキシコといった社会主義国家の他に、国際旅団という左翼の活動家の義勇軍に助けられていた。結局、フランコ將軍に敗北するが、左翼の行動パターンの典型例である。左翼は、自国で劣勢であると判断すると、援助を国際世論に訴えかける。激烈なプロパガンダ攻勢をかけて、詳細な現状理解が為されていないにもかかわらず、多大な援助や同情を勝ち取るのである。首相の靖国神社参拝の問題、「慰安婦」の問題、歴史教科書の問題、皆全て、他国へプロパガンダ攻勢をかけて問題を炎上、拡大させている。そして、意図的に国際問題に仕立て上げること

より、外国から「攻撃」を加えてもらうように仕向けるのである。

一方、日本の国際的な地位の向上や勢力の拡大を忌避する国家にとって、日本を毀損し貶める格好の口実として、左翼の反日プロパガンダは受け止められる。だから、反日国家と反日左翼は共闘、共犯関係となる。日本の左翼が仕掛けて、反日国家がこれに呼応する。また、反日国家が仕掛けて、日本の左翼がこれに呼応する。南京大虐殺問題はまさにこれである。これらの歴史問題や心の問題が、政治問題や外交問題に転化、発展してしまっただけは、ひとえに、左翼の窮状であり、彼らの都合による。また、左翼の特性と反日国家の思惑が合致し、共闘、共犯関係となり、歯止めが利かなくなる。

左翼思想とは何か。これは「破壊衝動の理論化」に他ならない。停滞し鬱屈した現状を打破する為の正当化の為の理屈が、左翼思想である。だから、伝統や歴史、慣習というものは否定し超克すべき対象でしか有り得ない。これらは全て「因循固陋」であり、滅び行くべき代物である。新しき存在が、これらに代わって君臨する。新しき存在とは何か。それは、伝統や歴史や慣習よりも遙かに太古のものである一番大本の古き存在、であるか、全く別次元の世界からもたらされたものである。現に、流行とは、一昔前よりもっと古いものを引っ張り出して焼き直しているか、海外のモードやエスニックを持ち込んでくるかのどちらかではないか。左翼思想に於いても、まさにそれが該当し、人間が太古から本来保持しているべき権利「人権」を取り返すために、「人権」を毀損している現在の庄政勢力を打破せよ!と説く

のである。伝統や慣習の根本である、「家族」についても、架空の「群婚社会」という代物を、發明して、家族を解体し、社会そのものが子供の育成をはかるのだとつそびく。エンゲルスの「家族・私有財産・国家の起源」こそが、現在のフェミニズムの源流であり、日教組教育の依拠している大本である。

靖国神社を巡る諸問題は、かくも左翼側の繰り出す一連の諸々の攻撃の一つである。つまり、全てが左翼勢力の生き残りという一点を扇の要としており、地下水脈でつながっている。だから、この問題には反対で、この問題では賛成という風になることは、稀である。

靖国神社を否定すれば、いわゆる慰安婦の問題も南京大虐殺の問題も米軍基地問題、脱原発問題、人権問題、差別問題、などなど全てが連動して結論が出てくる。つまり、これらの諸問題は、全てが支え合い一塊になっているのである。それゆえに、極めて強固で強靱なのである。しかしながら、これらの問題の一点でも突破された場合、一気に連動して総崩れになる可能性も否定出来ない。多面的な同時攻撃が必要であると共に、一点突破をはかる必要性も高いのである。さて、靖国神社を巡る問題はすべて日本人の心問題であり、魂の問題である。これを否定され、攻撃されるということは、日本人の命にかかわる問題である。単なる一神社を巡る問題では有り得ない。

靖国神社を「軍国神社」とか「侵略神社」と貶める者がいる。だが、靖国神社とは、徳川幕藩封建体制から近代国家・明治に変わる時に誕生したものである。いわゆる戦時ファシズムの産物ではない。無名の一介の兵士が、藩や国家に殉じる

ことよって「神」となる。これは、新しい概念と信仰であった。その母体となったのは、江戸時代から盛んとなる「義人信仰」である。村や藩、街の為に著しい貢献をした名士（一揆や直訴の首謀者も含む）を称えるために神としてお祀りする。ここに、貴人以外の一般庶民が「神」として祀られる道筋が開かれた。さらに、長州藩に於いて幅広く信仰された浄土真宗の信仰。これも無視出来ないだろう。阿弥陀仏の前では、皆平等であるという認識は、階級に関係無く、等しく祀られるということは靖国神社に受け継がれている。

一方で、公権力が祭祀する以上、公権力による恣意性は免れ得ない。蛤御門の変に於いては、朝廷を攻撃した側の長州藩士の方が、朝廷を守護するために落命した会津藩士よりも早期に合祀されている。これは、蛤御門の変という、一箇の事案を考慮したのではなく、明治維新の全体の功労者たる薩長土肥といった列藩を優先的に顕彰するという立場である。このことを批判する向きも多いが、戦没者を慰霊顕彰することは、政治的に無色透明で有り得る筈が有り得ない。国家の為に殉じた方々を顕彰するためには、その戦争に於いて全否定するということには有り得ない。そこに、国家間の差異や政治信条の差異、歴史認識の差異はどうしても逃れられない。だからこそ、神社でありながら、政治的な攻撃の矢面に立たされるのである。ならば、靖国神社を否定するということはどういうことか。これは明確である。「反日」であるということに他ならない。確かに、戦没者を神として祀るという形式は、比較的新しい信仰である。だが、それを神社として祀

るということは、日本古来からの習俗、伝統を踏まえたかたちでの祭祀である。

伝統とは、ガチガチの固体では有り得ない。現に、現在の日本人は、縄文人のような生活を送っているであろうか？ 弥生時代からの稲作を受け入れ、仏教や儒教など支那・朝鮮の諸々のことがらを受け入れた。さらに、貴族による平安時代、武士による鎌倉、室町、江戸時代とそのありかたは大きく変遷をとげていった。だが、今日の平成の時代まで受け継がれた縄文的なもの、弥生的なものは存在する。伝統とは、縄文時代から平成までの様々な事柄が融合し、取捨選択され、今日の我々の規範、根本となすものである。だから、「相対的に見て新しい」という指摘は、何の意味もなさない。また、戦没者の慰霊は、「怨親平等」であるべきで、自国や自軍の戦没者に限定すべきでないという批判も有る。だが、靖国神社が近代国家日本の産物である以上、中世の時代のような慰霊方式は相応しくない。中世に於ける慰霊は、いわゆる怨霊により天変地異が惹起されるという概念だった。恨みを抱いた横死者の霊が災いを呼べば、社会全体が害を被るというものである。そのため、政府が怨霊を鎮め、供養回向し、祟りを封じることが求められた。つまり、中世に於いて、鎮魂祭祀とは、一種の防災防疫の公共事業だったのである。一方、近代国家は、国民皆兵によって召集された兵士によって防備される。国民皆兵は、フランス大革命によって創出されたものであり、民主主義革命防衛の為の制度であった。つまり、国民皆兵は脱封建主義の制度なのである。国家共同体の為に戦って殉じるには、精神的な覚悟が不可欠である。封建社会に

於いては、戦つべき者（武士、騎士）であるという誇りと覚悟が戦鬪行為を可能にさせた。だが、封建主義的な階級を否定したところから出発した近代国家は、戦う者に対して新たな対応が要求された。これが戦死者を国家が顕彰し、榮譽を与えるということである。それは、どの国でも、その国の社会の歴史的伝統によって立脚した方式によって祭祀された。それが日本に於いては神社神道であったのである。もし、戦死者の名譽が毀損された場合はどうなるか。誰一人、国家を防衛する為に戦おうとしなくなるだろう。靖国神社を守ることについては、近代国家日本を防衛することであり、もし日本を攻撃しようとするのなら、靖国神社を標的にする筈なのである。

[436] 真実の歴史に基づいた誇り

Name : 海野貴史

Date : 2015/08/20(木)

現代の日本人に決定的に欠けているもの、それは「真実の歴史に基づいた真の誇り」だと思います。それがなければこそ万事にやる気のない子供のままだけが育った大人になったり、希望を抱くことができず自殺したり、誇りの欠如は社会の根底を揺るがす由々しき事態です。その意味で、戦後日本は根本がすでに間違っています。

それを止めるのは何十年単位でかかるものかもしれませんが、国を守ることに・真の意味で人や家族を愛することを端的に伝えた方々を祀り、そして何よりも今の世代が参拝や遊就館見学で先祖からの志を受け継ぐことを自覚できる靖国神社が一

つの鍵となるのは確実です。それを否定するような真実は絶対に許せません。

予備役の身ではありませんが、武家の末裔に生まれた身として、これから戦場に赴くことや靖国に祀られることもありうるという覚悟する身として、国の、ひいては次の世代の子らの心を守る一助になれば幸いです。

[424] 終戦記念日の日にちゃん

参拝したいです

Name : 小谷美穂子

Date : 2015/08/20(木)

このような馬鹿げた訴訟が行われていることに驚きました。靖国護国神社は日本人にとつてとても大切な存在であり、歴代の総理大臣が参拝して当然だと思っております。私個人と致しましては、終戦記念日の日にちゃんと参拝していただきたいと思っていますが・・・。

先程この情報を知ったばかりなので、知人とこの話をまだした事がないのですが、できるだけ協力したいと思っております。非力ながら応援したいと思っておりますので、頑張ってください。

[407] 原告側には法的利益はない

Name : 宇根元崇泰

Date : 2015/06/16(火)

靖国神社を解体する目的である手この手で靖国神社を被告席に座らせ、自己流の歴史認識で平和的生存権だと主張する原告側には憤を禁じ得ません。日頃から毎日反日の主義主張を活動指針とする原

告の者達の説教を邪魔するなど言わんばかりに、先日の口頭弁論において靖国神社側の補助参加を法的利益がないから取り下げると裁判所にいわしめた原告側の姿勢が眼に入りました。

原告側は尚更法的利益がないから提訴を取り下げなければならぬでしょう。第五回補助参加に参加表面いたします。原告側主張の平和主義は明らかに毎日を意味しており、学問的にも法律規範においても受け入れ難いこと。

靖国神社社崇敬者の立場から御祀神や神社への中傷誹謗に等しい原告の言動には憤りを禁じ得ないこと。靖国神社の速やかなる静謐な環境の回復と正常なる祭祀の執行の回復毎日的政治引力を断ち切るべきこと。

本年6月9日の口頭弁論において、第4次補助参加請求が棄却されているが、我々に法的利益がないのなら原告側には尚更法的利益はなく、司法裁判にはなじまないこと明確であること。

以上の理由をもちまして参加致します。

[357] 靖国に参拝し
Name: 堀野健一
Date: 2015/03/20(金)

私は心理カウンセラーをしております。師の頼みで病院で傾聴ボランティアをしており七千有余人の患者さんと向き合っており参りました。その半分の人達は直接戦争で戦ったかその御家族の人達でした。最後の特攻隊員、硫黄島、南京、731部隊、南方方面、シベリア抑留者等々多方面で戦ったか関連した人達でした。命を賭して志願されたお気持ちを聴きすると、

「日本の危機に立ち向かう事は当たり前じゃありませんか」と毅然と仰いました。そして真実は、なかば伝えられている捏造歴史とは大きく異なりますし、今ドキュメント等の戦死した兵士の可哀そう視は命を賭して戦った兵隊さん達への冒瀆です。私も東京で戦火の中を逃げ回り、家は焼け食へる物もない日々があり、姉は戦時中栄養失調で亡くなり、兄は職業軍人でしたが配属部隊で亡くなりましたが祖母や母達はこの状況を恨んだりした事はなく、お国の為に少しご奉公が出来たと受け止めていました。日本人なら当たり前なのです。

そして「靖国で会おう」と先に死んだ戦友達と誓い合った靖国に参る事は務めであり安らぎであり、心の落ち着き場所であり、ふるさとであると皆さん仰いました。日本の為に戦った人達に報いる事もしないで私達は何をしてきたのか。貶め活してきたのです。戦争の何であるかも理解出来ない、戦争を知らない者達までです。

その靖国神社に国の元首や総理まで参拝出来なくして、交戦、戦争もしていない特亜三国の干渉を受ける筋合いはありませんが、し向けたのは反日左翼と所謂なりすまし日本人です。すれ等と毅然として立ち向かわなくては成りません。

以来元日に靖国神社に参拝する人がなっており十七年経ちました。参拝者は年々多くなり、或若いお母さんは小学1、2年の我が子に「日本の為に闘って下さった兵隊さん有難うと、手を合わせて言うのよ。」と教え、何度も言い聞かせ、その子は声に出して復唱していました。70年が経過してこのようやくの動きですが、英霊に感謝の誠を捧げ、元首や総

理が参拝出来る当たり前の国にする為に、微力でも私が出来る事は何でもしたいと希っています。

[259] 今日の豊かな平和を甘受出来
Name: 中藤孝作
Date: 2015/01/03(土)

命・広中伸之は私の実兄で、昭和20年1月17日、中支・武昌上空の空中戦等で戦死、奇跡的に戦友によって本人が確認されて、茶毘に臥され、戦後、戦友に抱かれて帰還し先祖の墓に祀られております。戦地からの軍事郵便は毎週のように私たちの所に届けられ、遠く祖国を離れて日本内地の安否と親・兄弟への気遣いが面々と書かれておりました。母は、戦死する前に書かれた最後の「ハガキ」を後生大事に身に着けて居たのがいじらしく思い出されます。

今日、こうして豊かな平和を甘受出来るのも戦死した兄をはじめ、祖国日本の為に尊い礎となられた、靖国の御英霊の加護があるからと毎日感謝しております。

[253] 極左に鉄槌を
Name: 野田滋美
Date: 2014/12/18(木)

国のために命を捧げられた英霊に中心者が感謝の誠を捧げるのは万国共通の事です。安倍首相が靖国神社へ参拝された事に対し、損害賠償を求めると常軌を逸した事であり、絶対に認められません。そもそも、靖国神社には大東亜戦争で

は法務死をされた方ばかり祀られており、所謂A級戦犯とGHQが勝手に罪をなすり付けた方々も、A級戦犯としてでなく全て法務死として祀られています。

原告側が、A級戦犯が祀られている靖国神社に首相が参拝して被害を被ったといふのは、そもそもその論拠が潰れており、又、「被害を被った」というその「被害」の中身を万人が認めうる客観性を持っているものか、非常に問題のあるものと思います。

中韓米の、日本が悪い事をした極悪国家だったと日本を貶め、「日本人が輝かしい歴史を持つ圧倒的に秩序正しい勇猛な国民である」と言う誇りを持たせてはならないとする、情報戦、法律戦を、ねちこく仕掛ける悪質極まりない裁判劇であると考えます。

どこまでも安倍首相と靖国の英霊を守って行くため、この裁判に勝利して、極左に鉄槌を下さなければなりません。

[249] 【遺族】「英霊に贈る手紙」
Name: 田村治子(信州)
Date: 2014/11/28(金)

「英霊に贈る手紙」
 靖国に眠る お父さんへ

「おなつかしき敏治様 永い永い間本当に御苦労様でございます。元坊も治子もそして母ちゃんも此の日をどんなに待った事でしょう。毎日電報の来る日を持って、最早二年。私たちは二十一年六月十二日、佐世保に上陸し元気で居ます。」
 お父さん、お母さんはこの手紙を舞鶴引き上げ援護局宛に毎年毎年送っていましたよ。もしや舞鶴ではないかと夢みて

待つて待つていたのですね。その手紙の束が、返送の付箋が貼られてタンスの奥にあったのを、私はよく覚えてあります。今は弟と私で半分づつ大切に持つています。一枚一枚、天国のあなたへと言える程に素晴らしいラブレターですよ。

私の名前は、お父さんの敏治の一字から名づけてくれたのですね。私はこの名前が大好きです。誇りです。

ここに一枚のセピア色した写真が残されています。裏にはきれいな毛筆の字で、大林敏治三三才、芳江一八才、治子二才、元太郎三ヶ月と記されてあります。お父さんが出征された昭和二十年五月ですね。お父さんの目は覚悟を秘めた様子。母は寂しさを耐えている様子が写っています。お父さんは終戦間近に迫る二十年五月に満州の奉天から出征し、八月九日のソ連との開戦で負傷されたのですね。しかし、松山の実家に引き上げてきた私達母子は、昭和三年七月の死亡告知書が届くまで、お父さんは行方不明でしたので、留守家族として生きてきました。母子家庭としての母の苦労は筆舌に尽し難い、幾度も山道を越える道程でした。けれども私は父に会える日を待ちに待つて希望をつないで一五才まで一生懸命生きてきたのです。「父を訪ねて三千里」を夢見ていつか日本国中を探しに行こうと描いてきました。私は父の戦死の公報の現実を受けとめる事が出来ませんでした。戦争ゆえの悲劇と人生の矛盾をどこへぶつけたらいいのか答えのない道に苦しみました。そんな時、聖書をむさぶる様に読み始めました。十七才の夏の夜の事でした。お父さんが虹を渡りつつにこにこ「治子、大丈夫だよ」と手を振って夢に現れてくれたのです。その時に私はお父さんは天

国に居るのだと確信したのです。それから、お父さん達の崇高な犠牲の上に今日の日本がある事を忘れない生き方をしたいと心に誓い願って祈っています。お父さん 心からありがとうごさいます。かしこ

平成二十六年八月十三日

241] 若い君だらへ

Name : 宇塚市 吉田おさ子

Date : 2014/11/22(土)

太平洋戦争の真実

戦争の死ほど悲惨なものはない。しかもその多くは若い未来のある者たちが意味もなく死んで行くのである。そして、残された物の悲しみや苦しみが測り知れない。太平洋戦争(大東亜戦争)で失われた日本人の命は300万人(公表:戦闘員175万、一般人39万)とも言われている。これは祖父の戊辰戦争(1868)から父の太平洋戦争(1941~1945)までの、77年にわたって我が家に語り継がれた叙述である。語り手は祖父、海軍と陸軍の軍医だった伯父、それに1937年から1945年まで中国で職業軍人として戦った父である。

昨年(2013)のNHK大河ドラマ「八重の桜」で戊辰戦争をあつかっていたが、祖父は新潟県村上市の内藤藩(徳川家康の異母弟、5万900石)のスタッフの一員を父(筆頭御典医で扶持米300石、昭和40年代の法務大臣を勤めた稲葉修家は200石)に持つていた。戊辰戦争の時、村上天に火をはなち、村はずれの安全な場所へ落ち延びてから後を振り返ると、城が真っ赤に燃えていた。それを見たとき

の寂寥感は筆舌につくし難かったと言っていた。時に4歳だった。私がアメリカの空爆(1944,1945)で中島飛行機(東京、立川)が漆黒の闇に真っ赤に燃え上がったのを見た時、奇しくも同年齢だった。祖父は財産、仕事などすべてを失い、人生の辛酸をなめながら、勉学に励み、検定(明治時代)で医者資格をとった。そして、自らは「赤ひげ先生」と呼ばれるようになり、地域医療に貢献した。また、優秀な子どもたち(三人の医者と東大銀時計組の学者)を世に送り出した。私はあの日の空爆の衝撃(母が「よく見ておきなさい。これがアメリカの本当の姿よ」と言った。)を何に生かすべきかずっと考えてきた。今、この年になって論語の「義をみてせざるは勇なきなり」に後押しされ、中国の戦地(1937~1945)にいて見聞きした父の語りを中心に太平洋戦争の真実について綴ろうと思う。私自身も戦争で二人の伯父を失い、母は戦争が遠因で私が12歳の時に亡くなった。父の語ったことは、にわかに信じ難かったが、最近の情報開示によって戦争の真実が次々に明るみになり、父の語りの裏づけがとれた。その際、特に参考にしたものは、蒋介石の日記(朝日新聞、2008.8.27~9.16まで14回連載)、岡井敏著「原爆は日本人には使っていないな」(早稲田出版、2010)、加瀬英明、ヘンリー・S・ストーク著「なぜアメリカは対日戦争を仕掛けたのか」(祥伝社新書、2012)、田原総一郎の「真実の近現代史」(幻冬舎、2013)、オリバー・ストーン「オ

リバー・ストーンが語るもつひとつのアメリカ史」(早川書房、2013)等である。

母の兄は一人は海軍の軍医で、宮様を診察するような国の中枢の立場で、世界中を旅しており、世の動向を熟知していた。その伯父が「アングロ・サクソンの人間には注意しろ」と言い残した。この言葉をキーワードに前述の本等を読み継ぐと、日本を戦争へと追い込み、有色人種を支配するのに都合が悪い日本人を地球上から抹殺する計画をたてた黒幕が浮かび上がる。

その人物とは、オランダ系のアメリカ人で62代大統領フランクリン・ルーズベルトである。彼は中国にいたことがあるので、ほとんどの中国人は自分にとって都合がよければ白を黒とも言うことを知っていた。だから、当時の中国国民党の蒋介石と対立していた中国共産党に資金を出して、これをつまぐ利用した。先は反共産主義の蒋介石を隔離して国民党の部下にくどかさされ、共産党と統一させた。そして、盧溝橋事件(1937.7)を起し、日中戦争へと導いた。

その後、ゲリラ化した中国共産党は、上海事件(1937.8)、南京大虐殺(1937.12)を起した。彼は南京大虐殺の惨状の様子を、キリスト教関係者にフィルムにおさめさせた。それを平和なアメリカ本土で上映した。そして、野蛮な行爲を行ったのは日本人で、このようなことを行う日本人はサル以下とさげすんだ。そして、このような日本人を殺すことは何の心の痛みも伴わないような風潮を演出して、戦争への準備を着々と進めた。(心理作戦)

さらに、東アジアに飛行機を配備し、日

本が真珠湾攻撃 (1941.12.8) をする半年前には、太平洋戦争の準備が完了していたという。(前述のヘンリー・S・ストークスの証言による) そんなことは知らない日本は戦争回避を「日ソ中立条約」のあるソ連に働きかけ続けた。また、イギリスやアメリカにも働きかけた。

しかし、アメリカは最初から戦争ありきなので、巧妙に戦争を仕掛けた。日本が万策つきて戦争へと追い込まれた時、当時の首相東条英機はリーダーとしての無念を感じ、真夜中に布団の上で皇居に向かつて正座をし頭を深く下げて「陛下、申し訳ない」と言っただけで済んだそうです。

1941.12.20 に関戦を決定したアメリカ力は、日本側には予定のなかった真珠湾攻撃を、アメリカがとりこんだ山本五十六を利用して武士の兵法になぞらえて奇襲攻撃を演出した。

この時、真珠湾にあった給油設備などの軍需施設はすべて温存したという。このことはアメリカが開戦前に日本全土の航空写真をとって、中島飛行機や軍需関係の施設等をすべて調べ最初に攻撃していることから、真珠湾攻撃がいかに見せかけのものであったかが容易に推察される。

また、ミッドウェイ海戦では情報がすべてアメリカに知られており、現場へ行ったアメリカ人のほうが、寸分たがわな情報に正確さに驚いたと言っている。

この時も山本五十六が関係していた(アメリカも暗号を解読していたという)。ルーズベルトは地球上から日本人をなくすことを計画していたので、真珠湾攻撃後の1942.2.19の大統領令で、アメリカ本土(西海岸)にいた日系人(1割がアメリカ籍)10万人の財産を凍結して、砂漠や不毛の地域に鉄条網を張り、その

仲に強制収容した。最近ではカナダ日系人も強制収容されたと声をあげている。これはヒトラーがユダヤ人を強制収容所へ送ったのと同義である。

その後、日系人が声をあげ、この事が問題になった時、すでに収容された日系人はの万人に減少していた。心身の苦痛はもちろん財産も失い、全てをいちからやり直さなければならなかったその人たちに對して、一人当たりたった2万ドル(当時約600万円)を払って決着をつけた(1989)。しかし、この行為の根本的意味がヒトラーの行ったことと同様であることを日本人は明確に認識しておかねばならない。さらに、ルーズベルトは日本本土の日本人を扶殺するため、ヒトラーを憎んでいたユダヤ人のアインシュタイン(原爆の理論を考えた)を中心にした研究集団に原爆を作らせた。後に

1946.6.8の「ハイドパーク覚書」でチャーチルをまき込んで、日本人に原爆を使用することを知ったアインシュタインは、仲間の良心的な科学者に呼びかけ、日本人に原爆を使用しなきように嘆願書を大統領に提出した。

なぜアインシュタインが日本人に原爆を使用しないように嘆願書をだしたかといえ、彼は大正時代に日本へ来ていた。その時、船中で病気になる、日本人医師の手厚い看護を受けた。だから、彼は日本人に好感を持っていた。その後、原爆が広島(1945.8.6)と長崎(1945.8.9)に投下されたのを知ったアインシュタインは、研究仲間の湯川秀樹(日本で初のノーベル賞受賞者)夫妻の手をとって、涙を流しながら「申し訳ない」と誤ったそうである。湯川秀樹も少なからず原爆開発に関わった心の痛みを、その後

の夫妻は「原水爆禁止運動」の先頭にたつて、死ぬまで運動を続けた。中学時代の日本史で、太平洋戦争に至った原因を「日本がABCDラインに経済封鎖を受けてどうにもならなかった。」と学んだ。このABCDについて、Aはアメリカ、Bはイギリス、Cは中国とこまでは理解できたが、Dのオランダに疑問を持った。それが今にして、ルーズベルトがオランダ系アメリカ人であることを知って納得した。と同時に、日本を戦争に引きずりこんだ張本人がルーズベルトであるという確信の得た。そして、海軍の軍医だった伯父の「アングロ・サクソン系の間には注意しろ」と言ったキーワードに見事当てはまった。ルーズベルトは日本人を徹底して殺すため、原爆を作らせた以外に焼夷爆弾も作った。彼は日本家屋の特徴を研究し、いかに効率よく焼きつくすか実験を重ね、それを最新鋭のB29飛行機に搭載して、東京の空から雨霞のごとく落とした。これが東京大空襲(1945.6.10)である。わずか2時間余で、老人や女、子どもたち10万人が死亡し、100万人の被災者が生まれた。私のいとこも2歳の長男がかかえて、家が焼かれた中を必死で逃げた。その後、大阪をはじめ全国の主要都市を焼夷爆弾で攻撃して、1945.5には日本中が焦土と化した。この時、日本がポツダム宣言を無条件で受け居れること(N.Y.ヨークタイムズに掲載)を知りながら、9月以降も地方の都市を攻撃した。そして沖縄は地上戦の練習にされ多数の死者を出して6月23日の終了した。ルーズベルトはソ連のスターリンを仲間に入れ(その後スターリンの恐ろしさを知って、仲間に入れたことを後悔した

という)、ヤルタ協定(1945.2)で日本の領土だった樺太・千島列島をソ連のものにする約束をした。そして、ドイツが降伏(1945.5)した後のソ連にとつて都合の良い時(ドイツの降伏後6ヶ月以内)に、日本に参戦することが決まっていた。(だからソ連は「日ソ中立条約」を1945.4に1946の以降は破棄と通告)ルーズベルトは1945.4.13に死亡したので、原爆実験(1945.7.16)の成功は知らなかったが、次の大統領トルーマンに引き継がれた。

1945.5には日本全土が廃墟となり、戦意もなくなっていたにもかかわらず、原爆実験の成功(1945.7.16)からわずか20日後に投下する必要のない原爆を広島にウラン型、長崎にプルトニウム型を投下した。そして、日本人を使って、人体実験を行った。(1945年末には広島は14万人、長崎は1万人が死ぬという報告もされていた。)

アメリカは戦争終結のために原爆投下は必要だったと世界に宣伝した。今でも「必要だった」と信じてるアメリカ人が多くいる。

ソ連のスターリンは、ドイツと戦ったため日本から攻められないように急に「日ソ中立条約」を結んだ。そして、ドイツが降伏(1945.5)すると、戦力を満州(現在の中国東北部)国境に集結し、1945.8.6の長崎に原爆を投下したのに呼応した如く、参戦してきた。そして、8.9の終戦後に何十万人(約100万人)もの日本人を酷寒のシベリアへ連れて行き、シベリア鉄道を作らせた。今日ではシベリア鉄道の枕木は、あたかも日本人の死体(50万人以上)が並んでいるかの如くであると言われている。

「これもスターリンの恐ろしさを知らなかったルーズベルトが自分たちの仲間にさそった結果であろう。」

以上のような太平洋戦争の様子を時系列に書いた。当時の日本は石油などの燃料の輸入先が8割もアメリカに依存していた。このことはルーズベルトが大統領になった1933年頃から綿密巧妙に仕組まれたものであったことが容易に推察される。本来は日本が被害者なのに、アメリカによって加害者として世界に認識されるようにされている。また、中国(中国共産党)はアメリカの手先になって日中戦争を仕掛けてきたのに、被害者として世界に発信している。

「これらの事から、私たちは何を学ぶべきであろうか。太平洋戦争(1941)以前は多くの日本人が正確な情報を得ることが困難であった。しかし、今日ではその気になれば十分な情報が得られる。過去のように相手の巧妙な仕掛けに乗らないため、私たちは一人ひとりが主役になって、国際化社会の一員として日本を厳しく見つめよう。」

“天国の父と早野総務部長に告ぐ” 戦後極貧の中で母を失い、男手で12歳から22歳まで育ててくれた父。医学部への進学を希望していた娘に「家から通学できる大学へ行って欲しい」と遠慮げに言った父。後年、経済に余裕が出てきた時に「今だったら医学部へ行かせられるのに」と言っただけだった父。そんな父が娘に贈った言葉は、「おまえは武士の娘だ。誇りを持って生きてゆけ」だった。娘は、「こんなに貧乏な何かが誇りか」と心中でいつも反発していた。が、ふと気づいたらこんな一文を綴っていた。

期待されて、国の試験研究機関に採用

されたの(本人は全く知らない)、25歳の時、結婚で転勤を相談したり、早野総務部長(1967)現農業生物資源研究所の前進)が、「国はキミに何の期待もしていないから早く転勤しろ」と言っただけで、この文を書いた。

“早野部長さん、少しは国の役にたてたのでしょか。”

ここで終わる予定だったが、中国がコネスコの世界記憶遺産に「南京大虐殺と韓国の従軍慰安婦の記録」を申請したことを知り、ここのはっきり記す。

南京大虐殺は記述したようにルーズベルトの指示で中国共産党が行ったものであり、慰安婦については、父が実母や弟妹に金を要求されて、泣く泣く収入が多い職業軍人になったように収入の多い職業として希望して慰安婦になったものである。父がはっきりに言っていた。日本人は相手を思いやって言わないようにしているが、現代はそのような事は通じない。なお、韓国には1965年の5億ドルの賠償金を払っている。日本円で1800億円。これがどれほどの金額か当時の例で比較する。

私が1964年、農水省に大卒の一種として採用された時の初任給が、18000円(7月に1号あがった)。大卒の平均が21000余円。国立大学の年間授業料が9000円(但し、理系の学生は一人当たりの税金を25万使用)。1964.10.1に開通した、新幹線は世界銀行から8000万ドル(日本円288億)を借りて作った。これらの事から韓国に支払った1800億円がいかに高額であったかおのぞと知れよう。それによって韓国は

今日の繁栄の基礎が築かれたのだから、そのことを韓国国民にははっきり知らせるべきである。

日本は言いつべき事ははっきり言わなければ今の世界には通用しない

[235] 我々は最上級の敬意を持って、靖國神社と言わねばならない

Name : 山道哲也

Date : 2014/11/14(金)

室蘭市、中島神社森田宮司の「英霊は存在する。そして今の日本に傲を飛ばして、」と言った話を事務局経由で聞いて、全くその通りだと思えます。何か英霊は神の存在だから暖かく我々を見守っている、と言ったようなことを見聞き致しますが、とんでもないと思っています。現状の日本のふがいなさに、お怒りであることは明白です。

国難に殉じた民族の英雄を顕彰することは、万国共通の普遍事項です。日本人だけが敗戦に萎縮させられ、忘却させられているように思えてなりません。

現在の境内にはパル判事の碑や鎮霊社などがありますが、あんなものは、國神社に必要ありません。世界平和や家内安全を願う場所ではないからです。

なぜあの軍事裁判で敵国の判事を務めた人間の碑があるのですか。

靖國神社とは誤解を恐れずに言わせて頂けば、まさに軍人のための戦争神社であり英霊を未来永劫顕彰し、彼らのあとに続く誓いを立てる場所でもあります。来たるべき国難に備えて、時が来れば英霊と共に勇敢に武器を持って戦う覚悟を誓い、契る神聖な場所なのです。

私は靖國神社を“靖國”と呼び捨てにして、したり顔で英霊を語る保守もどきにはいい加減辞易していただきます。左翼は“YASUKUNI”、“ヤスクニ”などと靖國神社を貶める呼称を使っています。保守が思考停止して同じように使っているのを聞くと怒りすら湧いてくるのです。靖國と呼び捨てに出来るのは英霊と戦友だけでしよう。

我々は最上級の敬意を持って、靖國神社と言わねばなりません。こんな当たり前前かがみで浸透してない現状で、総理の参拝や陛下のご親拝が叶うはずもないでしょう。

多くの国民が畏敬の念を込めて“靖國神社”と呼ぶ日が来なければ、それらは実現しないと思います。まずは我々から始めるべきだと思います。

活動資金の協力をお願い

まずは平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。

私たちは、このレポートにもありますように、日本の将来、子供達に輝く未来を約束するため、なによりも靖國神社を大事に思う運動を展開する任意団体です。ところが問題は活動資金。特別なスポンサーなどはなく寄付で賄っています。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

○ 寄附(カンパ金)の主な使途

- ・ 活動の為に資料作成費・発送費
 - ・ 交通費・通信費・備品購入費等
- ◆ 同封の郵便振替にてご協力ください。または郵便振替

00980-7-329878
英霊を被告にして委員会

【226】 【遺族】今の我國の繁栄と平和

母、1)英霊のお蔭 Name: 岡崎幸平
Date: 2014/10/26(田) 20:08 「返信」

今の我國の繁栄と平和は、国の為家族の為と心から思う、勇猛果敢に戦い、たった一つしか無い尊い命を捧げられた、1)英霊のお蔭であります。

口清、口露、大東亜戦争と戦い抜いた我が民族の命を惜しまぬ戦ぶりは敵国軍人も称賛する所であり、そのことが戦後70年の平和が保たれた最大の要因であります。

靖国神社に鎮まると英霊に対しては、今を生きる我々国民一同感謝の誠を奉げるべきです。絶対英霊を貶めてはなりません。

【220】 【遺族】靖国攻撃には敢然と戦ひべき Name: 竹内重田 Date: 2014/10/18(土) 07:28 「返信」
戦前出征兵士を我が国民は全て敬愛を持って送ったのであった。

然しながら占領後或いは独立後は手の平を返すような戦況者英霊を侮蔑した。その最たる名称が英霊の冒瀆であり、靖国神社攻撃である。

ただがっつりわたらの行動に敢然と戦い勝利せねばならぬ。

叔父、父ら帝国軍人、延いては我が国の先人のためにも是非とも協力したいと考えます。

【215】 先祖に顔向けできません

Name: 上田暢彦 Date: 2014/10/18(土) 07:04 「返信」

靖国の英霊は私の祖父一人の部下や上官達であります。

父方の祖父は小隊長として東南アジアから生きて本土の土を踏みました。

母方の祖父は伍長でありましたが、体調を崩し本土に帰りましたが、敗戦間近にて爆撃により死にました。

我々の為に立派に戦った祖父達が何故悪く言われなければならないのですか？

死人に口なしはもったくさんです。日本人は今こそ声を上げ英霊の汚名を晴らすなければ先祖に顔向けできません。

【210】 【遺族】英霊に恥じない日本を

Name: 波多洋治 Date: 2014/10/18(土) 06:45 「返信」

昭和19年5月14日、家内の父は北支に散華されました。

祖国日本を思う、ふるさとを思う、亡くした生命を捧げたのであります。

家内三才の時のようにあります。以後母一人一人の生活の中で、困窮に耐えながら、最高学府まで進み、教師生活を生じました。

義父の供養は、後に続く私達への激励と勇気を与えるものであります。

父達の尊い犠牲があればこそ、私達の今日の繁栄です。

私達は英霊の思いに応え、英霊に恥じない日本を築いていかなければなりません。日々心を新たにし、祖国再建を胸に刻み精進したいと存じます。

【201】 和をもって尊しの日本人の良いところが悪用されている Name: モチキ マサヒ Date: 2014/10/06(月) 21:13 「返信」

日本人として許しがたい訴訟だと思えます。

福沢諭吉の脱亞論といきたいのですが、相手方がどうしても日本に寄生しようとする悪行が許せません。

また、日本の政治家も腐っていて、どうしても親韓派や親中派が蔓延している現状に嫌気をさしております。

法曹界におかれましても、近年は人権を重んじて和をもって尊しの日本人の良いところが、完全な弱点として悪用され、醜い拡大解釈をも常識の如く取り上げる。いただいたと危惧しております。

良識ある弁護士さんは希少と成りつつある現代、本心に頑張ってください。取り敢えず、一個人として末席に参加させていただきます。

【110】 どのような英霊の国を憂う尊い姿があった事実を教育して貰いたいです

Name: 伊勢諏訪 Date: 2014/09/28(田) 14:41 「返信」

藤井一少佐は歩兵科出身で熊谷飛行学校の中隊長として少年飛行兵の精神教育

を担当していました。教え子達が戦死する中、自らも特攻を志願しましたが、航空技術の専門ではなかったで願いは聞き入れてもらえず、特攻への志願、却下がくり返されました。

そんな中、夫の固い意志を知った奥さんは、『私達がいちたの世の未練になり、思う存分の活躍が出来ないでしようから、一足お先に逝いって待っています』という遺書を残し、長女と次女を連れて飛行学校近くの荒川に身を投げました。

妻子の死を無駄にしまいと藤井少佐は再度、特攻への志願を強く訴えました。軍でもこうした事情を考慮した結果、特攻志願を受理することとなりました。

そして「われ突入する」の電信を最後に、妻子の待つ黄泉の国に旅立ちます。終戦の僅か2カ月半前のことでした。それは、妻子三人が荒川で命を絶った師走の15日から、五カ月経ったときでした。

現代の平和な世の中は… どのような英霊の方々の崇高な精神により築き上げられたものであると、しっかりと昨今の軟弱な若者達に教育し、英霊の御霊に心から感謝しなければいけません。

